



# 登立小だより

水無月号



登立小HP  
文責 校長

## 「いざ」に備える

近年は全国各地で地震や集中豪雨などの自然災害が相次いでいます。学校は、子供たちにとって一日の大半を過ごす場所であり、災害時には何よりもまず「命を守る場所」となります。そこで今回は、本校で日頃から行っている防災の取り組みについてご紹介いたします。

### 「自分の命は自分で守る」ための避難訓練

本校では、年間を通して様々なシチュエーションを想定した避難訓練を行っています。

○地震・火災想定訓練 「お・は・し・も（おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない）」を徹底し、安全かつ迅速に避難する練習を繰り返しています。

○不審者対応や津波・大雨想定訓練 地域や季節のリスクに応じた訓練も実施し、いかなる状況でも落ち着いて行動できるよう指導しています。

### 日常の備えと安全点検

○備蓄品の管理 災害時に備え、非常食や飲料水等を市当局のご支援により体育館等に備蓄し、定期的に点検補充しています。

○校内安全チェック 毎月の安全点検日には、教室の棚の固定状況や、廊下・階段に避難の妨げになるものが置かれていないかなどを厳しくチェックしています。

### 防災教育（マイタイムライン）

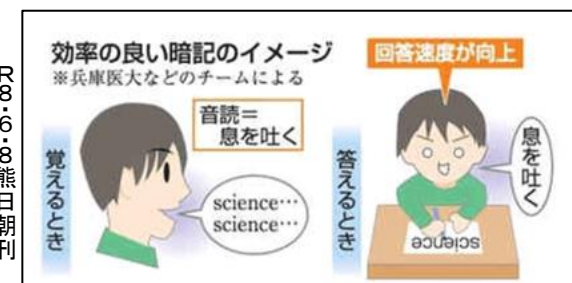
授業では、地域のハザードマップを見ながら「通学路の危険な場所」を確認したり、災害が起きたときにどう行動すべきかを話し合ったりする時間を設けています。

### 「お家でも話し合ってみませんか？」

災害はいつどこで起こるか分かりません。「もし放課後や休日に大きな地震が来たら、どこに集まるか」など、ぜひこの機会にご家庭でも具体的なルール（連絡方法や避難場所等）を話し合ってみられたらいかがでしょうか。

## 家庭学習のヒント～暗記は「声に出す」のが一番！～

「うちの子は暗記が苦手です…」とお悩みではありませんか。最新の研究で「息を吐きながら覚えると、記憶の効率がグッと上がる」という面白い事実が公表されました。「声に出して読む（音読）」ときには、必ず息を吐いています。研究によると、脳は息を吸うときにノイズが走り、息を吐くと、そのノイズが静まって記憶が定着しやすくなるという仕組みを持っているそうです。



テストで思い出すときも、息を吐いているときの方がスピードがアップするそうです。もし、お子さんが机でじっと黙ったまま苦戦していたら、「フーッと息を吐きながら、声に出して読んでごらん。」と声をかけてみてください。この方法は、勉強だけでなく運動のフォームやダンスの振り付けを覚えるときにも効果的だそうです。ご家庭でも、お子さんが「声を出して勉強できる環境」をぜひ温かく見守ってあげてください。

## 人との関わりの中で大切にしたい「心のもち方」

学校では、子供たちが日々様々な人と関わり合いながら成長しています。時には、すれ違うこともあります。それも大切な学びの機会です。今回は、子供たちに育みたい「他者と心地よく関わるためのヒント」を4つの視点にまとめてご紹介します。その①は、自分を見つめ、心を強くする「してはならない」とわかっているのにやってしまう自分の弱さと向き合って克服しようとする姿勢を大切にする事です。また、些細な出来事を気にし過ぎず、強い心を持つことも人間関係を豊かにします。その②は、相手の立場に立ち、行動する「相手がうれしくなること」や「どんな行動が優しいか」を想像し、実行してみる事です。自分が大好きな「よくしてくれる人」に、自分自身も近づこうとする気持ちが、やさしい表情や心へとつながります。その③は、すれ違いを乗り越える

知恵を持つことです。けんかやトラブルは誰にでもあるものです。大切なのは、相手の表情やしぐさから心情を推しはかり、相手の良いところを認めて関係を修復する方法を知っておくことです。その④は、感謝の気持ちでつなぐ今の自分があるのは、周りの支えがあってこそと考えることです。そのつながりに気づくことが優しさの原点であり、「ありがとう」という言葉の力が、周りも自分も幸せにしていけます。

学校でも日々の生活や道徳の時間を通じて伝えてまいります。ぜひ、ご家庭でも「今日お友だちにありがとうって言えた？」など、温かい人間関係について話し合うきっかけにしてみてください。



### 拉致問題を考える

私たちは普段、当たり前のように学校に通い、家族と一緒にご飯を食べている。しかし、その「当たり前」を突然奪われてしまった人がいる。そんな現実と向き合うため、6年生が「横田めぐみさんの拉致問題」と「子どもの権利」について学びを深めました。13歳のめぐみさんが突然家族や日常生活を奪われた事実を知り、のびっ子たちは真剣に「人権が奪われることの重さ」について深く考えました。また、すべての子供にある「生きる・守られる・育つ・参加する権利」についても学び、自分や友達の権利を大切にすることをぐっと高める時間となりました。



## あどがき～梅雨の到来、九州を支える「恵みの雨」～

九州地方もいよいよ本格的な梅雨のシーズンを迎えました。連日雨が続くと気が重くなりがちですが、実は、この長雨は私たちの暮らしか九州の豊かな自然を支えるためになくならない「恵みの雨」です。なぜこの時期に雨が続く理由は、日本上空で「北の冷たい空気」と「南の暖かい空気」が激しく押し合っているからです。お互いに譲らないため、その境界線に「梅雨前線」が長く居座ることになります。ジメジメして敬遠されがちな梅雨ですが、実は水資源としては極めて重要です。私たちが暮らす九州地方では、1年間に降る雨の約25%～30%（約4分の1）が、この梅雨の時期に集中して降ります。もし梅雨に雨が降らないと、夏場に深刻な水不足が起きたり、農作物が育たなくなったりします。梅雨の雨は、私たちの命や生活を繋ぐ「貴重な水の貯金」なのです。この時期は、災害のリスクも高まりますが、自然の恵みへ感謝しながら、自然との共存の意識も高めたいものです。

# のびっ子の輝き

## Noboritate.es School life scene

田中さくら先生(本校卒業生)が**教育実習**に取り組まれています。2月にプレ実習を終えられ、今回は2週間の本実習です。3年生の学級を中心に教育活動に取り組みながら、教職の理解を深めていらっしゃいます。のびっ子たちと関わる姿からは「すぐにでも教壇に」と頼もしさを感じます。本校でキャリアを積み、夢実現を果たされることをみんなで応援しています。



のびっ子のみなさん、  
よろしくお願いします。  
共に学び、大いに遊びましょう。

全員で整えたプールで、「**プールびらき**」を行いました。のびっ子の「泳ぎ初め」です。快晴の下、プールは笑顔と歓声で、とっても賑やかでした。今年の水泳学習の安全と泳力の向上を願います。



1年生と6年生の巻です。  
プールびらきは、学年ごとに実施しました。

**引渡訓練**を実施しました。先日は台風6号接近に伴い午前中授業、給食後一斉下校の対応をしたばかりですが、再度、対応マニュアル通りに事を進め、実効性の検証をしたところ。多くの保護者の皆様方の御協力により、命を守る行動を全校あげて行うことができました。



のびっ子が**体カテスト**に取り組みました。昨年との記録をもとに新記録を目指してがんばったのびっ子たちです。5年生と6年生は低学年の記録の測定やテストの確認のお手伝いも頑張っていました。挑んだテストを通じて、筋力、柔軟性、持久力など、自分の運動能力を知るのびっ子たちです。



プールでの水泳学習が始まります。私たち教職員も、**救命救急**に関する研修を行いました。北消防署から講師をお招きし、心肺蘇生をはじめとしたスキルアップ、そして、リスク管理について学びを深めました。



4年生が**総合的な学習の時間**の学びを深めています。地域文化の継承をねらいに、天満宮にまつわる「うそ」の講話を聴きました。GTの山川さんからのお話をもとに、神事「うそ替え」について学びを深めた4年生です。学習成果は7月の「夏まつり」につながります。登立の夏がやってきます。



5年生が校外学習「**水俣に学ぶ肥後っ子教室**」に参加しました。水俣の地で取り組まれている環境再生への取組の様子を確認する学習活動を行いました。学びを通してふるさとの環境保全についても問題意識を高めた5年生でした。これからの学びの広がりを楽しみます。よく頑張りました。



「**心のきずなをふかめる月間**」である6月にあわせて、人権意識を高める取組も進めています。のびっ子会が中心となって、人権宣言を立てました。のびっ子一人一人の輝く学校生活において、個々が意識し、実行すること。そして、学校全体が実行できることについて考えながら作成しました。個が尊重され、個が生きる集団、個が集団のために役割を果たし、大きく成長していく集団へとのびっ子が、学校が変容していけるように、全員で力を合わせて取り組みます。



- のびっ子人権宣言 2026夏**
- その1 友だちの気持ちと自分の気持ちを大切にします
  - その2 素敵な言葉をすすんで使います
  - その3 笑顔あふれるスーパー小学校にします



資料館前で学びの証を